

今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ（案）に関する意見

①	氏名 (フリガナ)	藤ノ木信子 (フジノキノブコ)		
②	住所	(都道府県名)	(市区町村以下)	
		新潟県		
③	電話番号	0 2 5 - 7 6 3 - 3 7 6 1	メールアドレス	
④	職業		⑤年齢	
			⑥性別	
意見該当箇所		⑦御意見		
頁	行	(200字を超える場合は200字以内の要旨も記載)		
8	6 ~ 7	「山間部にダムを建設し、洪水のピーク流量を低減させる方法は極めて有効な対策であるが、」		
		<p>【意見】 ダムに流入する流域に降雨があったときのみ有効で、直下流には中小規模の降雨で効果があっても一定以上の降雨については効果がなく、相当距離がある都心部では洪水軽減効果はほとんど期待できない。よって「極めて有効な対策」は限られた降雨・地域条件でだけ言えることで過剰評価。</p>		
1 3	1 5 ~ 1 6	治水対策案は、河川整備計画の目標と同程度の安全度を確保することを基本として立案する。		
		<p>【意見】 現在の河川整備計画の目標値が過大であり、実現不可能である。現実に沿ったものに見直さないと、どんな対策案も絵に描いた餅になるのでは？ P 1 6, P 2 0, P 3 5にも同様の表現あり、同様の意見を付す。</p>		
1 6	2 4 ~ 2 5	「個別のダム事業については、各地方整備局等、水機構、都道府県が「検討主体」となって、検証に係る検討を行う。」		
		<p>【意見】 検討は学識者・住民などダムによる利害の薄い者が行うべき。各地方整備局・水機構・都道府県は、それら検討者に資料を提供する役目に留まること。過去において清津川ダム計画の検討については、河川工学・経済学・理学・生物学等の学識者による専門委員会が、他の分野（気象・森林）の学識者や流域民のヒアリングを交えて原則公開で行った。事業者が検討する立場にあると、事業の正当化に偏りがちで、ヒアリングも「聴きおいた」という既成事実づくりになる可能性がある。</p>		
4 0	4 ~ 5	「例えば、調節池等によって公園や水面ができると、観光客が増加し、地域振興に寄与する場合がある」		
		<p>【意見】 意味不明。調節池とは何を指すのか？調節する施設はそれ故水位の変動が大きく、観光に適した水面にはならないのでは？多目的ダムも同様。これまでかろうじて観光に適した湖面を有するのは貯水式の発電ダムだが、昨今、それも観光客離れが進んでいる。人口の水面よりも自然河川の環境のほうが地域振興につながる。P 5 4にも同様の表現あり、同様の意見を付す。</p>		
1 8	1 0 ~ 1 4	「検討過程においては、「関係地方公共団体からなる検討の場」を公開するなど情報公開を行うとともに、主要な段階でパブリックコメントを行う。 ・学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長、関係利水者の意見を聴く。」		
		<p>【意見】</p>		

<p>49</p> <p>6～10</p> <p>全体所感</p>	<p>上記に書いたとおり、市民の意見は聴きおくというものでなく、市民が検討に参加できるようにするべき。流域住民に限らず市民が委員になるように設置するべき。この中間とりまとめをした有識者会議自体が非公開で行われており、「検討過程を公開」と言っても信頼できない。</p> <p>「既得水利の合理化・転用は、用水路の漏水対策、取水施設の改良等により、用水の使用量の削減、農地面積の減少、産業構造の変革等に伴う需要減分を合わせて他の必要とする用途に転用する方策である。」</p> <p>【意見】 これまで各地方整備局が行ってきた既得水利権の期間更新は全くノーチェックで、見直しのためにある更新が全く機能していなかった。そのため取得当時の農地面積が減少しても権利量は既得権として半永久的に存在し、新規の水源を求めるとダム建設に賛同となるケースが多い。徹底的な水利権の見直しを行うと同時に、一定期間（例えば100年）を経過したものは一旦権利を返還する手続きを踏むなど思い切った施策を行い、使用者に川の水は限られた公共用物であることを再認識させるべき。</p> <p>これまでの河川行政によりダムのない川がないほど日本中の川が寸断されてきた。それによって河川・海岸・山間の自然環境が受けた影響は大きい。堆砂でいっぱいになったダムや浸食された海岸、壊滅的な漁業資源…その後始末をどうするのか…その反省と清らかな河川の恵みを回復させる取り組みが先にあるべきなのに、中間とりまとめではここまでの在り方についての反省が見られない。造るだけ造って、財政難になったからコストの安いほうへという無責任ささえ感じる。本当にこれからの河川を言うなら、有識者会議が主管して地域合意を得て「今後の川はこうなります」というモデルケースを実現させてほしい。川の恵みと洪水の許容のバランスをとり、実際に人と川の付き合い方のお手本を示してください。</p> <p style="text-align: center;">以上</p>
-----------------------------------	--